

越前に於ける二十四輩巡拝について

池田正男

はじめに

二十四輩とは親鸞聖人の面授の高弟たちを指し、近世にはその遺跡を巡拝することがブームとなった。越前に於けるこのブームの実態を追ってみたいと思う。一項では案内本、二項では巡拝帳について調査したので、若干の考察を記す。

一 二十四輩巡拝案内本

十一件の書籍を挙げ、その特徴などを記しておく。また表一には横軸に資料番号、縦軸に旧跡名を記し、記述と図の有無を記号で表わした。

以下、書誌については版本と写本の別、巻数（丁数）、著者名、

成立年、「巡拝ルート」の順に記す。なおG⑥とG⑨以外はすべて筆者の架蔵にかかるものである。

G① 遺徳法輪集^①

版本六巻七冊（一八七丁）、宗誓、宝永八年（一七一）刊「北陸・信濃・関東・相模・甲斐・東海・美濃」

二十四輩の案内本ではないが、初めて越前の寺院が記された版本であり、後の案内本の参考資料として影響を与えたとみられる。

冒頭に毫撰寺が挙げられ、「元今出川にあったが、大町如道にかかる鯖江浄照寺（誠照寺）、横越清浄寺（証誠寺）、中野専称寺（専照寺）の本寺となり、清水頭に移転した」と記されている。次いで福井橋立真宗寺、岩倉村法興寺、木田橋宗賢、同浄徳寺、和田本覚寺、但馬興宗寺、大味浦法雲寺の由緒が記されている。

特記すべきは他に見られない由緒が記された岩倉村法興寺である。親鸞が越後下向の折、文殊嶽の峠道を通り足羽郡岩倉村（福井

本の下部には道程と茶屋・宿・名所の記載があり、実際に踏査して調べた事項が記されている。越前の記述は荒血山（愛発）と細呂木鋸坂の親鸞の御詠歌が記され、次いで和田本覚寺、但馬興宗寺の由緒と宝物が記されている。後に刊行される本は徐々に選定寺院の基準が曖昧になってゆくのに対し、厳格な基準で巡拝寺院を選んで



図1 黒岩法興寺跡に立つ石塔

「親鸞聖人御旧跡」と彫られた石塔が残されている。

G② 親鸞聖人御旧跡二十四輩記

版本七卷（二五八丁）、竹内寿庵、享保十六年（一七三二）刊「京・湖東・北陸・信濃・関東・奥羽・相模・東海・美濃・湖東」

著者は越前の人であって『越前名勝志』を著している。後書きによれば、「越前国大野郡椎原邑・経廻・竹内寿庵」と記し、その後大野郡人四名の名を記しており、実際に踏査しこれを援けた人々があったことが知れる。なお、『福井県史』によれば寿庵は元丸岡藩主本多氏の家臣であったが、元禄八年（二六九五）本多氏の除封と共に志比原に隠棲し、『名勝志』は元文三年（一七三三）頃の成立とされている。

市文殊地区）の当寺に一泊したとある。ちなみに当寺は近世末期に足羽郡赤坂村に移転し寺号も「法光寺」を用いている。同寺旧地の林中に「聖徳太子・親

いたとみられる。

G③ 親鸞聖人御旧跡図彙

版本一冊（三三三丁）、山田信斎、寛延四年（一七五二）刊「近江・北陸・信濃・奥羽・関東・相模」

厳密な意味では案内本ではない。しかし当時の毫撰寺と福井御坊の伽藍図及び吉崎の見取り図が描かれており、貴重と考え載せておいた。また「鯖江浄照寺（誠照寺）本堂十二間半四方也、横越清浄寺（証誠寺）本堂十間四方也、中野専称寺（専照寺）本堂七間四方也」と記され、これも貴重な情報である。なお寺名は『遺徳法輪集』を踏襲しており、この本を参照していたようだ。

序文によれば老母の求めで旧跡を巡拝し、堂宇のたたずまいを略図にして母に見せたとあるから、著者の実地調査記録でもある。

なお奥付の頁に「二十四輩旧跡図彙 さいしき 箱入」とあるが、このような本は見当たらないことから、この本の別称であり、彩色版とみられる。

G④ 親鸞聖人御旧跡二十四輩巡拝記

版本（横本）一冊（七〇丁）、江玉堂楓司、宝暦五年（一七五五）刊「京・湖西・北陸・奥羽・関東・相模・信濃・甲斐・東けん海・美濃・湖東」

二十四輩案内の懐中本の嚆矢である。著者は遠州掛川の住人であり、跋文によれば著者自身の実地調査に依るものであることが知られる。この本は版を重ね、後には後述する『参詣記』との混成版も出される始末である。



図2 柘植御旧跡

越前の記述を見てみると、京より湖西を通り越前入りする道程案内を載せ、絵は敦賀湾と吉崎の遠景が載せてある。案内する寺院名を列記する。横越証誠寺・鯖江誠照寺・鳥羽万法寺・福井專照寺・橋宗賢・東御坊・真宗寺・和田本覚寺・西御坊・興宗寺・油屋勘左衛門・舟橋柘植・久末照嚴寺・吉崎東御坊・西御坊。

特記事項としては五分市毫撰寺の記載がなく、一方、福井東西御坊・吉崎東西御坊と蓮如関連の油屋が載せられている。

また伽藍の寸法が記されている。証誠寺（本堂十二間四面）、誠照寺（本堂十三間四面）、万法寺（本堂七間に六間）、專照寺（本堂十三間四面）、東御坊（本堂十九間四方）、真宗寺（本堂九間に十間）、本覚寺（本堂十間に九間）、西御坊（本堂二十三間四方）、興宗寺（八間四面）、吉崎東御坊（御堂八間四方）、西御坊（同前）。

G⑤ 親鸞聖人御旧跡二十四輩参詣記

版本（横本）一冊（一一二丁）、嶋屋長治、明和四年（一七六七）刊「京・湖西・北陸・信濃・奥羽・関東・相模・甲斐・東海・美濃・湖東」

『巡拝記』より十二年遅れて近江八幡の嶋屋長治が懐中案内本を刊行している。序文によれば宝暦七年・同九年・同十三年・明和二

年の四回実地調査をしたと記されている。

越前の記述を見てみよう。「いもがだいら」（芋ヶ平）、毫撰寺、つげ（柘植）、川しり（川尻）西光寺が記されている点が目新しい。特に毫撰寺への道程として、府中・北山村舟渡し（帆山村の誤）・やはし村（矢放やはたな脱）・しやう村（庄村は庄田村に改称）・おう村（大出村に改称）が記され、横越村への道程として、まから村（真柄村）・たに村（戸谷村とたと脱）・中新庄村・下新庄村・新村と記され、巡拝者の利便性が高まった記述となっている。ただし脱字や聞き間違いの多さも目立ち、版を重ねても修正されることがなかった。

なお毫撰寺の説明では「本堂十三間に十一間東向・あみだ堂九間に八間」とあり、貴重な記述である。また「ぜんらん上人旧跡なり」と記し、当寺での聞き取りに依る記述とみられ、本願寺サイドの認識とは差異がある。なお、この本の最後に「御本山御免記」と記され、本願寺の承認を受けている点が注目される。

伽藍の概寸で『巡拝記』と差異がある部分のみ挙げておこう。誠照寺（本堂十六間四方・東向・阿弥陀堂八間四めん）、專照寺（阿弥陀堂九間四面）、東方御坊（本堂十三間二間掾三方）、興宗寺（本堂九間に十間）、西御坊（本堂十六間四面・三方に四間の掾）、川尻西光寺（本堂十間四面）、吉崎西方御坊（本堂六間四面）、同東方御坊（本堂八間四面）。

G⑥ 大谷遺跡録³

版本五巻、先啓了雅、安永七年（一七七九）刊「京・北陸・信濃・関東・奥羽・甲斐・東海・美濃・伊勢・近江・摂津・備後」

本願寺の学僧の手によるものである。本願寺サイドの文献研究成果が反映されている。寺名の補記に道程と所在地が記され、次いで各寺の由緒が記されている。越前の寺名は次の通りである。毫撰寺、府中陽願寺、証誠寺、誠照寺、大味法雲寺、岩倉法光寺、橘屋、専照寺、真宗寺、本覚寺、興宗寺の十一ヶ寺の由緒が記されている。余談ながら、この本の付録と位置付けされる『諸寺異説彈妄』も⁴刊行された。ここには、越前四箇寺、法雲寺、岩倉法光寺、本覚寺、興宗寺の由緒の誤謬を糾弾している。

G⑦ 二十四輩巡拝図会

版本十卷（五六四丁）、了貞、享和三年（一八〇三）刊「京・近江・北陸・信濃・関東・相模・甲斐・東海・美濃・摂津・河内・備後・伊勢」

前編五巻・後編五巻で文は僧了貞によって編まれ、特に絵図は玉泉洞水によって忠実に描かれたものを多く載せている。しかし旧跡の所在地は載せているが、道程については説明文に簡単に記されているものの、街道や宿駅等は記されておらず、案内本と云うよりも名所図会の様式によって編まれている。

了貞は河内専教寺の僧であるが本願寺の学僧でもあって、本願寺サイド文献研究成果を踏襲している。また凡例によれば、前掲の書物にはすべて目を通して、誤謬を正さんとして編んだと記している。また玉泉の題文によれば千（百）聞は一見にしかずの格言にある通り、忠実なる絵図の提供によって誤った理解なきことを願っている。よってここに載せられた絵図は当時の実態をよくとらえていると

みられ、貴重な情報と云えよう。これらの絵図は稿末に挙げておいた。なお伽藍図が記された寺の概寸は本文に記されており、これも貴重である。

異同があるものを挙げる。毫撰寺（本堂十三間四面・金堂九間四面）、陽願寺（本堂十三間四面）、証誠寺（本堂十三間四面）、誠照寺（本堂九間四方・御影堂十六間四方）、専照寺（本堂七間・御影堂十二間）、真宗寺（本堂十間四面）、本覚寺（本堂十間四面）、西御坊（本堂十九間四面）、興宗寺（本堂九間四方）。

G⑧ 二十四輩御旧跡道しるべ

版本（横本）一冊（八二丁）、光玉堂主人、天保十五年（一八四四）刊「京・湖北・北陸・信濃・奥羽・関東・東海・美濃・湖東」

近世の懐中案内本として最後に刊行された。越前の記述を見てみよう。諸本同様、湖北より入越しており、敦賀湊と九十九橋の図を載せている。取り上げた旧跡寺院を列記しておこう。芋が平、毫撰寺、府中陽願寺、証誠寺、誠照寺、万法寺、専照寺、橘宗賢、真宗寺、西御坊、東御坊、本覚寺、興宗寺、油屋勘左衛門、願乗寺、柘植、久末照厳寺、川尻西光寺、吉崎西御坊、同東御坊と盛り沢山となっている。

前掲同様伽藍寸法を載せている。異同があるものを挙げておこう。誠照寺（本堂十三間四方東面・あみだ堂八間四方）、西御坊（本堂二十三間四面）、東御坊（本堂十九間四方）、吉崎西御坊（御堂五間の道場）、同東御坊（同八間）

なおこの本の売捌所として、福井河内屋常七が記され、別本では

鷹屋與兵衛が記されている。

G⑨ 御旧跡并二十四輩記⁵⁾

写本一冊(五〇丁)、近藤彦右衛門、幕末期成立「北陸・信濃・

関東・東海・美濃・越前」

近藤家(坂井市三国町池上)所蔵の手書の案内記がある。福井を出発し、北上して北陸・信濃・関東・相模・東海・美濃・北国街道を通り福井に帰着する道程が記されている。特に聖人御硯岩(越後有間川)、大場村光源寺(二景)、弥彦大社、おぼすて山(信州戸倉)、噴煙を上げる浅間山、白井峠、妙喜山、筑波山、板敷山、富士山、以上十一景が書き込まれているのが注目される。

なお越前人の記したものの故、越前の旧跡は記していない。中央より版本として刊行されているものと異なり、地元を起点として記された案内本であり、貴重である。ただ執筆者や記録年を欠いているが、浅間山が噴煙を上げていることから、浅間山噴火年代より凡そ天明三年(一七八三)頃の成立であろうか。

G⑩ 見真大師御旧跡要図略解

版本一冊(五四丁) 絵図巻物、鷹津冬輝、明治十五年(一八八二)

刊「京・湖西・北陸・信濃・関東・東海・甲斐・美濃・河内」

旧跡四十五景を選び、版本にはその由緒を記し、巻物には版木刷りの彩色図が描かれている。よって案内本ではないが越前の絵図が描かれているので取り上げておく。

越前では、車の道場、橘宗賢、柘植御旧跡の三図が描かれている。

よく見ると『巡拝図会』の図を写し取り、彩色を施したもので、

オリジナルの構図ではない。但し両者を比較すると構図範囲や人物や情景が微妙に異なっており、全くのコピーではない。

G⑪ 見真大師御旧跡二十四輩道しるべ

版本(横本)一冊(六四丁)、片山嘉助、明治二十六年(一八九三)

刊「京・湖北・北陸・信濃・奥羽・関東・相模・甲斐・東海・

美濃・湖東」

懷中案内本として最後に刊行されたものである。諸本と同じく湖北より入越するが、敦賀より大良・春日野より武生に入っており、新国道を通っている。記載寺院を列記しよう。陽願寺、毫撰寺、証誠寺、誠照寺、三十八社常照寺、万法寺、麻生津称名寺、専照寺、橘宗賢、大谷別院、真宗寺、本覚寺、本派別院、興宗寺、油屋、柘植、川尻西光寺、吉崎大谷派別院、同本派別院。

二 二十四輩巡拝帳

史料の収集に努め、筆者所蔵を含め二十二件の巡拝帳を紹介するとともに若干の考察を加えたいと思う。表二には、横軸に資料番号、縦軸には越前での旧跡名を挙げ、記帳の手書・版本かを記号で記し、手書きの初出と版木の初出の順番を付して「二十四輩巡拝帳集」に挙げておいた。また通過月日を付しておいた。入越・出越ルート確認のため、越前の接続地となる若狭・湖西・湖東・加賀・美濃も追加しておいた。

以下、表題を掲げ、所蔵者名、出発地、巡拝者名、出発年月日、

到着月日、総参拝箇所数「巡拝ルート」の順に記しておく。

J① 無題 筆者蔵

美濃国不破郡今須平井、不詳、天明元年（二七八二）五月中旬
 〓十月初旬、八十五か所「大野入・北陸・奥羽・関東・相州・
 甲州・尾張」

J② 親鸞聖人御旧跡巡拝 福井県文書館画像提供

越前国丹生郡血河平村、妙清・妙円・妙周、寛政二年（二七九〇）
 二月二十九日〓三月下旬、十二か所「北陸」

J③ 御旧跡二十四輩巡廻帳 蓮成寺蔵（愛知県碧南市）

越後郡頸城郡錦村、惣左衛門、文化三年（二八〇六）四月初旬
 〓五月中旬、二十か所「越後・信濃・近江・京・北陸」

J④ 御旧跡二十四輩順拝帳 蓮成寺蔵（同朋大学仏教文化研究所
 画像提供）

三州碧海郡大浜下村東、磯貝清右衛門、文化四年（二八〇七）
 正月下旬〓四月下旬、三十六か所「尾張・美濃・湖東・京阪・
 湖西・北陸・信濃・奥羽・関東・相模・東海」

J⑤ 二十四輩巡拝記 谷口家蔵（福井県越前市）

越前国今立郡横市村、平右衛門・妻、文化六年（二八〇九）六
 月下旬〓七月下旬、十六か所「湖東・美濃・尾張・信濃・北陸」

J⑥ 祖師聖人御旧跡帳 蓮成寺蔵

越之前州今立郡西尾村、惣左衛門妻、文化八年（二八一二）七
 月三日〓八月下旬、三十四か所「北陸・信濃・東海・伊勢・京・
 湖東」

J⑦ 祖師聖人御旧跡記 筆者蔵

越後国頸城郡小出雲村、小右衛門、文化一三年（二八一六）十
 月下旬〓十二月、五十か所「北陸・湖西・河内・伊勢・尾張・
 三河・信濃」

J⑧ 祖師聖人御旧跡巡拝 筆者蔵

和州南部三條村、きく、文政五年（二八二二）三月初旬〓十一
 月下旬、百七十七か所「京・湖西・北陸・信濃・奥羽・関東・
 相模・甲斐・東海・尾張・美濃」

J⑨ 二十四輩御旧跡拝礼 筆者蔵

飛騨国白川牛丸村、孫六、天保三年（二八三二）三月〓七月初旬、
 七十四か所「越中・加賀・越前・湖東・京・美濃同六年越中・
 北越・信濃 七年京・摂津・伊勢」

J⑩ 御旧跡巡拝帳 筆者蔵

奥州南部和賀郡、清之助、天保四年（二八三三）三月〓七月初旬、
 二十四か所「越後・関東・相模・尾張・美濃・近江・信濃・越後」

J⑪ 祖師聖人二十四輩御旧跡巡拝 文書館画像提供

越前国丹生郡余田村、新左衛門、天保十一年（二八四〇）七月
 〓十月下旬、四十二か所「関東・北越」

J⑫ 高祖聖人二十四輩巡拝 筆者蔵

越中国新川郡、鷹童富之臣、天保十四年（二八四三）五月初旬
 〓七月下旬、六十二か所「越中・若狭・京・播州・讃岐・和泉・
 紀伊・江州」

池田 越前に於ける二十四輩巡拝について

J⑬ 祖師聖人蓮如上人御旧跡巡拝 文書館画像提供

越前国大野郡今井村、五三郎、安政五年（一八五二）五月二十八日、十六か所「越前」

J⑭ 祖師聖人二十四輩 蓮成寺蔵

伊勢国桑名郷朝明郡富田一色、利八、嘉永二年（一八四九）二月、十一月下旬、二十三か所「伊勢・尾張・信濃・関東・奥羽・北陸・近江・和泉」

J⑮ 高祖聖人御旧跡巡拝 筆者蔵

摂州西成郡上福島村、能登屋柴蔵母ふで、嘉永七年（一八五四）四月初旬、十月下旬、二百二十三か所「湖西・北陸・奥羽・関東・相模・甲斐・東海・美濃湖東」

J⑯ 親鸞聖人御旧跡巡拝帳 筆者蔵

濃州海西郡成戸村、勢以・幾以、万延元年（一八六〇）閏三月中旬、閏三月下旬、六十二か所「京・湖西・越前・加賀 同四月下旬、七月下旬奥羽・関東」

J⑰ 御旧跡御印鑑帳 文書館画像提供

越前国大野郡中ノ手村、斧右衛門、慶応四年（一八六八）七月、不詳、十か所「近江・関東・奥羽・北陸（残闕のみ）」

J⑱ 祖師聖人御旧跡巡拝 文書館蔵

越前国丹生郡乙坂村、三郎右衛門、明治二年（一八六九）七月三日、八月下旬、五十九か所「北陸」

J⑲ 高祖聖人二十四輩巡拝記 蓮成寺蔵

伊勢国員弁郡平野新田、古川すゑ、明治十五年（一八八二）五

月中旬、五月下旬、十三か所「北陸・信濃」

J⑳ 無題 筆者蔵

尾張中島郡玉野村、吉田甚右衛門、明治十八年（一八八五）四月初旬、十月初旬、二百六十四か所「美濃・京・湖西・北陸・信濃 翌年尾張・三河 翌々年東海・相模・関東」

J㉑ 見真大師二十四輩巡拝 筆者蔵

羽前国東置玉郡萩村、加賀ふよ、明治十八年（一八八五）十二月、七月下旬、百八十か所「関東・相模・東海・美濃・湖東・京・湖西・北陸・信濃」

J㉒ 見真大師御旧跡巡拝帳 筆者蔵

羽前国東置玉郡萩村、加賀はる、明治十八年（一八八五）十二月二十五日、七月下旬、九十九か所「湖西・北陸・信濃」

(二) 巡拝ルート

前出の案内本は概ね京都・湖西を通り入越し、吉崎から加賀に向かい、越中・越後から信濃を経て関東入りし相模・甲斐に戻り東海・美濃・湖東を経て京に戻るルートを記している。しかし実際には出発地により、かなりのバラエティが見受けられる。

㊦ 越前人の七件の場合は、越前圏内一件、北陸圏内二件、北陸・関東圏二件、湖東・美濃・信濃・北陸一件、北陸・信濃・東海・伊勢・京・湖東圏一件とバラエティに富んでいる。また巡拝期間には田植え前一件、田植え後六件と、圧倒的に田植え後に行っているケースが多い。

㊧ 美濃人の場合（二件）、海西郡人の場合では、閏三月中旬に出

- 発し京に入り湖西を経て越前・加賀を巡り同月末に戻っている。
- 不破郡人の場合は、大野から入越し、丹南を通らず福井・吉崎を経て加賀入りし、北陸・奥羽・関東・相模・甲斐・東海を経て美濃に戻っている。五月中旬に出発し十月中旬に戻っている。
- ㉞ 尾張人の場合(二件)は美濃から湖東を経て京に入り、湖西を経て入越し、北陸・信濃・美濃を経て戻っている。一件は正月に出発し四月下旬に戻っている。後一件は四月に出発し十月初旬に戻っている。
- ㉟ 摂津人の場合(一件)は京を経て湖西から入越し、北陸・奥羽・関東を経て戻っている。二月に出発し十月下旬に戻っている。
- ㊱ 大和人の場合は京・湖西を経て入越し、北陸・信濃・奥羽・関東・相模・甲斐・東海・尾張・美濃を経て戻っている。三月初旬に出発し、当月下旬に越前を通過し、百七十七ヶ寺を回って十一月下旬に戻っている。
- ㊲ 伊勢人の場合(二件)、一件は尾張・信濃を経て関東入りし、奥羽・北陸・近江・和泉を経て戻っている。二月に出発し十一月下旬に戻っている。後一件は明治十五年に巡拝期間も半月ほどでシヨートカットしているので、あまり参考にはならない。
- ㊳ 奥州南部人の場合(一件)は越後から関東入りし、相模・尾張・美濃を経て湖東から信濃・越後を経て戻っている。三月に出発し七月初旬に戻っている。
- ㊴ 羽前人の場合(二件)は関東・東海・京に入り湖西を経て入越し、北陸を北上して戻っている。十二月に出発し七月下旬に戻っている。
- ㊵ この二件は身内同士らしいが何故か同道していない。
- ㊶ 越後人の場合(二件)、一件は信濃を経て京に入り、近江通過ルートは不明で、入越し北陸を北上して戻っている。四月初旬に出発し五月中旬には戻っている。後一件は北陸を南下し、吉崎から入越し湖西を経て河内・伊勢・尾張・三河・信州を経て戻っている。七月初旬に出発し八月下旬に戻っている。
- ㊷ 飛驒人の場合(一件)は越中を経て南下し吉崎から入越し、湖東を経て京・美濃を経て戻っている。また後年になって越後・信濃を回っている。最初は十月下旬に出発し十二月に戻っている。
- ㊸ 越中人の場合(一件)は北陸を南下し吉崎から入越し、三十八社から今泉(河野)を経て海運によって敦賀に渡り、小浜・熊川を経て京に入り、播州・讃岐・和泉・紀伊・江州を経て戻っている。五月初旬に出発し七月下旬に戻っている。
- ㊹ 総括すると、農閑期を使って手早く近場を回るケースが多い。また出発地から効率的に回って限られた期間に戻ってこられるルートを周到に計画していることを窺わせる。
- 総廻すれば早くて四ヶ月、ゆっくりペースでは七ヶ月費やしている。冬の間は雪のない太平洋岸を回り、北陸は雪が消えた頃に北陸を回っている。しかし総廻は二十二件中六件に過ぎない。また極力農閑期を利用していることも注目される。
- 美濃海西郡人と飛驒白川人、尾張中島人の場合は数回に分けて巡拝している。美濃海西郡人の場合は田植え前に京・湖西・越前・加賀を回り、四月下旬に再出発し奥羽・関東を七月下旬に回って

いる。飛驒人の場合は初回に越中から南下して湖東を経て京に入り、美濃を経て戻り、次回に北越から信濃、三回目に山城・摂津・伊勢を回っている。尾張中島人の場合は初回に京に出てから北陸を北上して信濃を経て戻り、二回目に尾張・三河を回り、三回目に東海を北上して相模・関東を回っている。このような分廻も一つの形態であろう。

また播州や讃岐・紀伊あるいは伊勢などの名所に足を延ばすケースも目立つ。

(二) 越前通過日数

二十二件中、越前人や越前不通過などを除く十一件を対象として、平均通過日数は六日半であり、早くて四日、ゆっくりペースでは十日費やしている。早回りでは芋ヶ平や毫撰寺や柘植の旧跡や加戸や三国を経ないケースが多い。

(三) 越前通過ルート

多くは湖西から入越し、吉崎を抜けている。変わり種は湖西を経ないで船で長浜に渡り、湖東を経て入京するケース。また三十八社から今泉へ行き、船で敦賀に渡り、小浜・熊川を経て入京するケースがある。また美濃から大野から入越し北上するケースもある。

(四) 加賀での通過ルート

天保三年(一八三二)以前は山中湯を通過しないケースが始どだが、それ以降は多泊するケースが目立つ。また山城(山代)に至っては明治十八年に一件通過するケースが見られるのみであることも注目される。

なお加賀以北で海運を利用するケースが無いか見てみたが、そのケースは見当たらなかった。

(五) 巡拝帳への版木使用と御朱印

天明年間では専照寺と油屋のみが版木を用いていたが、文化年間では版木の普及が進んだようだ。しかし福井御坊や吉崎御坊では版木利用に抵抗があったらしく、明治になってから初めて用いられた。

普及が進んだ理由は小中規模の寺院では能筆家を常時配置しておくことから免れるメリットがあったためと考えられる。一方、福井御坊や吉崎御坊では当番制を採っていたことから、当番役の収入源ともなっていたため、版木利用に抵抗があったと考えられる。

なお嘉永七年の芋が平での版木がつぶれており、それ以降は版木が更新されることはなかった。版木が高額であったためであったろうか。

対照的に専照寺は参拝者が多いためであろうか、五種の版木が確認できる。また同時期に複数のデザイナーの版木を保有していたケースも確認できる。

朱印が使われる時期をみておこう。天明元年(一七八二)では大半は黒印が押されているが、一割程度に朱印が押されている。越前では朱印は専照寺のみであった。版木使用は専照寺と油屋のみであった。文化三年(一八〇六)になっても誠照寺のみに朱印が押されている。

版木使用は誠照寺・興宗寺・本覚寺・照巖寺に広がっている。同四年では敦賀山中光伝寺・万法寺・証誠寺・真宗寺に版木使用が広がり、五割が版木となった。朱印も光伝寺・油屋に広がり、全体の四分の一に押されるまでに普及が進んだ。

ちなみに嘉永七年の四国八十八ヶ所朱印帖では実に五十ヶ寺が版木を使用している。朱印を使わなかったのは一ヶ寺だけだった。

(六) 巡拝者について

巡拝者の性別と職業などをみておこう。血ヶ平(越前丹生郡)の例では家族とみられる三名(男子二名女子一名)が同行していたようだ。また横市(越前今立郡)の例では夫妻で巡拝している。また羽前の加賀氏では同族とみられる女子二名が同行していた。しかし圧倒的に男子の独行が多い(十二件)が、四件の女子の独行もみられる。また女子の独行はゆつたりとした旅程であることが多い。

また商家の老母が一件、武家が一件みられる他は、圧倒的に農家が多い。年令は不詳だが、名号を持っていたり、母と記す点からみて第一線を退いた隠居の身である高齢者が多いようだ。

註

- (1) 「遺徳法輪集」(妻木直良編『真宗全書 史伝部拮聚抄・法輪集・二十四輩記・大谷遺跡録』藏経書院、一九一三年) 九七頁。
- (2) 「親鸞聖人御旧跡二十四輩記」 同前二二頁。
- (3) 「大谷遺跡録」 同前三三五頁。
- (4) 「諸寺異説彈妄」 同前四三六頁。
- (5) 「御旧跡并二十四輩記」(福井県文書館蔵 近藤彦右衛門家文書)。

参考文献

- 渡辺信和「二十四輩巡拝とその案内書」(『巡礼記研究』第四集、二〇〇七年) 一三三頁

池田 越前に於ける二十四輩巡拝について

表一 二十四輩巡拝案内本一覧表(越前)

○記述あり ●伽藍図 ■景色図 ▲情景図 数字は図版番号

寺名(所在地等)/資料番号	G①	G②	G③	G④	G⑤	G⑥	G⑦	G⑧	G⑨	G⑩	G⑪
荒乳山(敦賀)		○					■1	○			○
芋ヶ平(今庄)					○		●3	○			○
毫拱寺(今立郡清水頭村)	○		●2				○	○			○
陽願寺(府中)						○	○	○			○
證誠寺(今立郡横越村)			○	○	○		●4 ▲5	○			○
誠照寺(今立郡鯖江)			○	○	○		●6	○			○
車道場(今立郡鯖江)							▲7				○
万法寺(今立郡鳥羽村)				○	○		○	○		▲8	○
常照寺(三十八社村)											○
称名寺(麻生津村)											○
法興寺(足羽郡岩倉村)	○					○	○				○
尊照寺(福居本田町)			○	○	○		●9	○			○
橘宗賢(北庄本田村)	○			○	○		▲10	○			○
浄徳寺(北庄本田村)	○										○
本覚寺(福居和田村)	○	○		○	○		▲12	○			○
興宗寺(福居但馬村)	○	○		○	○		●13				○
橋立真宗寺(福居)	○			○	○		●14 ▲15	○			○
福井御坊(福居)			●16								○
東御坊(福居)				○	○		●17	○			○
西御坊(福居)				○	○		●18	○			○
油屋勘左衛門(福居松本町)				○	○			○			○
願乗寺(福居)								○			○
法雲寺(大味浦)	○					○					○
祐枉(舟橋)				○	○		■19	○		■20	○
照嚴寺(久末)				○	○			○			○
鏡坂(細呂木)		○					○	○			○
西光寺(川尻)					○		●21	○			○
吉崎(吉崎)			■22	■23			■24 ▲25		○		○
東御坊(吉崎)				○	○		●26	○			○
西御坊(吉崎)				○	○		●26	○			○
嫁おとし(吉崎)							▲27				○
敦賀湊(敦賀)				■28			■29	■30			
湯尾峠(湯尾)							■				
九十九橋(福居)							■31	■32			
舟橋(舟橋)							■				
三国湊(三国)							■				
三国遊女(三国)							■				

二十四輩巡拝案内本図集 (1)



1 荒乳山 (愛発)



3 毫摂寺



4 証誠寺



6 誠照寺



2 毫摂寺



8 車道場



5 証誠寺勅号

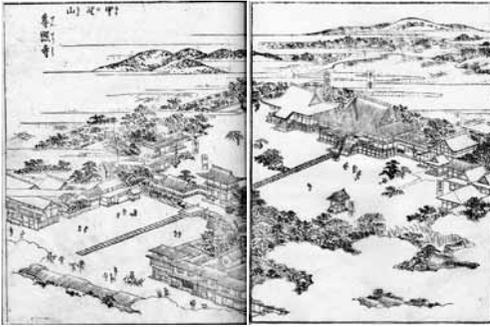


7 車道場



二十四輩巡拝案内本図集 (2)

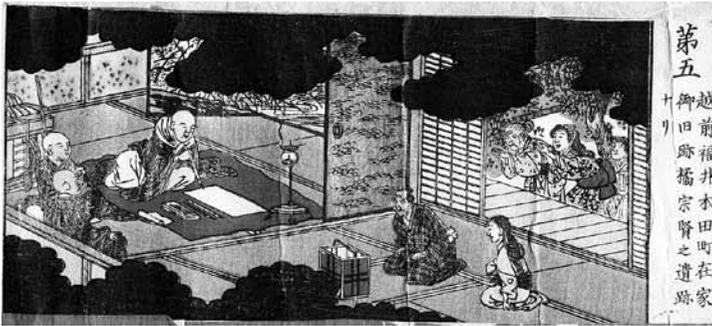
池田 越前に於ける二十四輩巡拝について



9 専照寺



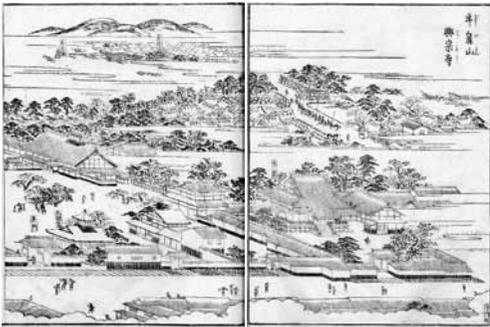
10 橋宗賢



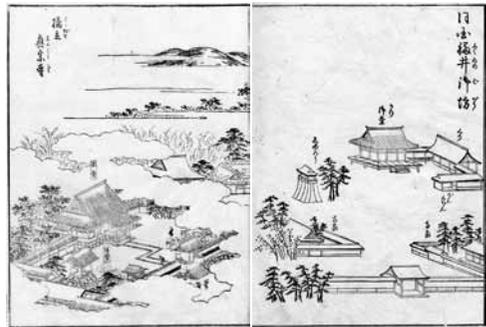
11 橋宗賢



12 本覚寺

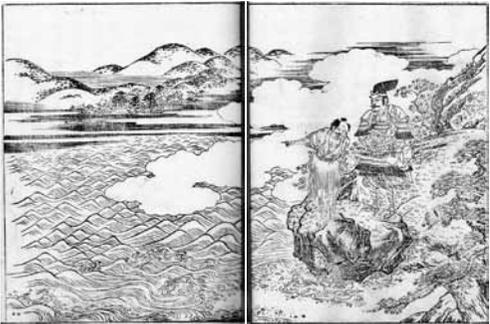


13 興宗寺



14 真宗寺

16 福井御坊

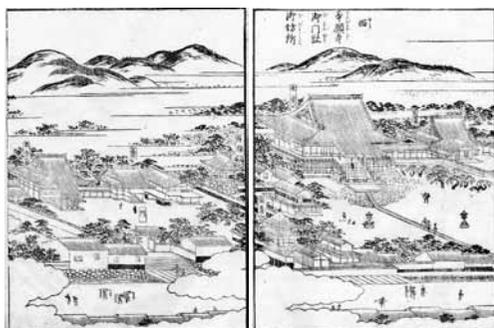


15 真宗寺由緒

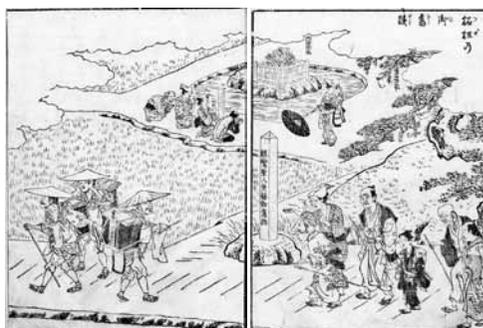


17 東御坊

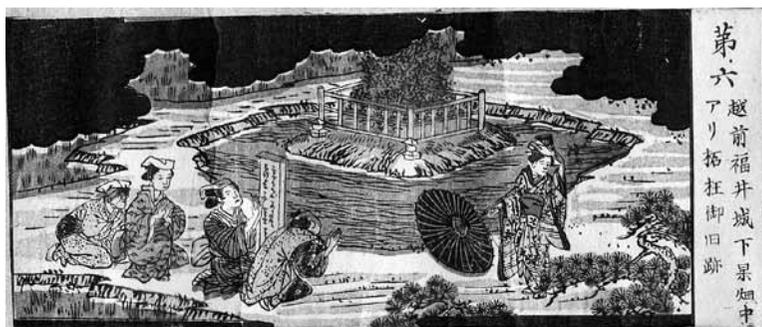
二十四輩巡拝案内本図集 (3)



18 西御坊



19 柘植



20 柘植



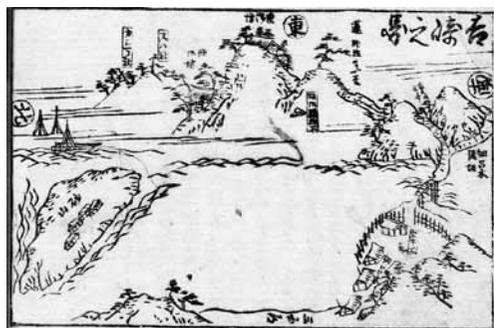
21 西光寺



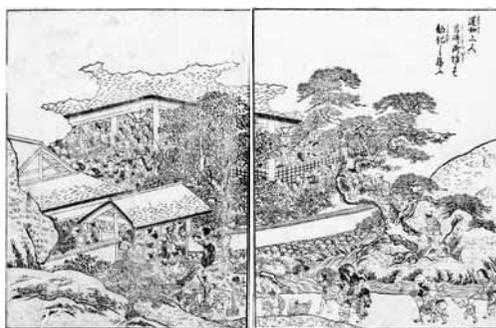
22 吉崎



32 九十九橋



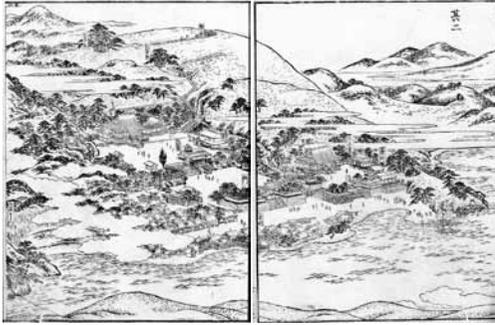
23 吉崎



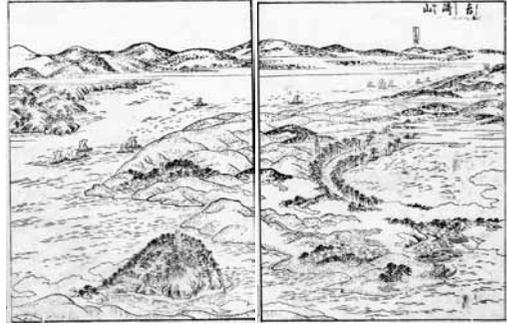
25 吉崎

二十四輩巡拝案内本図集 (4)

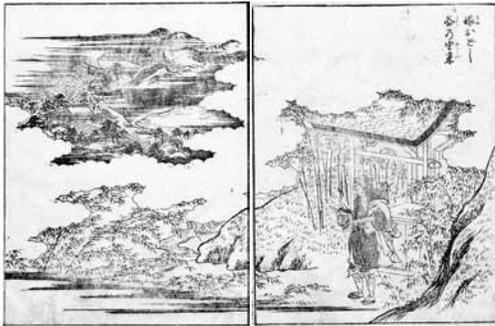
池田 越前に於ける二十四輩巡拝について



26 吉崎



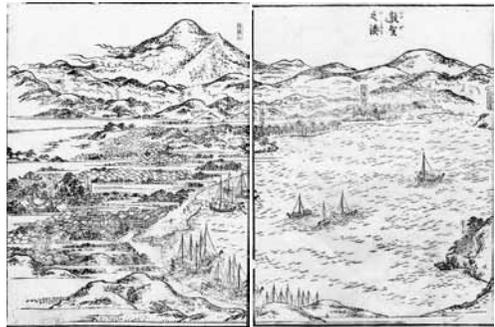
24 吉崎



27 嫁威し



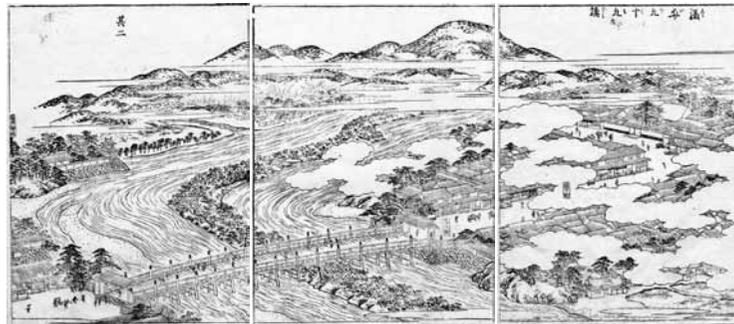
28 敦賀湊



29 敦賀湊



30 敦賀湊



31 九十九橋

表二 二十四輩巡拝帳一覽表 (越前)

○ 手書 □ 版木 記号前数字=図番号 記号後数字=通過(月/日)

寺名(所在地)/資料番号	J①	J②	J③	J④	J⑤	J⑥	J⑦	J⑧	J⑨	J⑩
光傳寺(敦賀山中村)				33□				□		
顯円寺(敦賀山中村)										
円教寺(敦賀)							36□			
浄念寺(今庄)										
教念寺(今庄芋ヶ平)										
毫根寺(今立郡清水頭村)								□(3/23)	40□(11/4)	
誦誠寺(今立郡横越村)				42□				□	○(11/3)	
誠照寺(今立郡騎江)			44□	□			□	□	□	
万法寺(今立郡烏羽村)				46□				□	○(11/2)	
常照寺(三十八社村)				47○(2/6)			○(7/18)			
称名寺(麻生津村)									49○	
法光寺(足羽郡赤坂)										
秘藏寺(福居花堂)										
專照寺(福居木田町)	54□		□	55□			□	□	□	
藤宗賢(北庄木田村)	○(5/23)					○(6/25)	○(7/18)	○(3/24)	57□	
本覚寺(福居和田村)	58○		59□	○			□	□	□	
興宗寺(福居但馬村)	○(5/23)		61□(5/4)			○	□	□		
橋立真宗寺(福居)				63□			□	□		
福井掛所(福居)	64○(5/23)			○(2/6)		○(6/25)	○(7/18)	○(3/24)		
西御坊(福居)			65○役所(5/4)	○役所(2/6)	○役所(7/30)	○役所(6/26)	○役所(7/18)	○役所(3/24)		
東御坊(福居)										
顯乘寺(福居)										
油屋脇左衛門(福居松本町)	69□			□				□		
法雲寺(大味浦)										
嚴教寺(森田)										
淨因寺(森田)										
祐狂(寄安村)										
妙安寺(金津)										
常樂寺(加戸村)										
本流院(加戸村)										
智敬寺(三國)										
西光寺(川尻)								○(3/26)		
照嚴寺(久末)			79□(5/5)	□(2/8)						
西御坊(吉崎)				80○会所(2/8)		81○御堂(6/27)	82○兼帯(11/17)	○兼帯(3/27)	○兼帯(11/1)	
東御坊(吉崎)										
顯慶寺(吉崎)	85○掛所	86○御坊(2/29)	○掛所(5/5)	○掛所(2/8)		○掛所(6/27)	○掛所(7/17)	○掛所(3/27)	○掛所(11/1)	
西念寺(吉崎)										
本光寺(吉崎)										
法栄寺(吉崎)										
道地(大野郡保田村)										
超勝寺(足羽郡藤島村)										
本向寺(足羽郡市波村)										
嚴福寺(足羽郡開成寺村)										
勝万寺(吉田郡志比)										
碧岑寺(丹生郡厨浦)										
蓮興寺(小浜)										
妙光寺(小浜)										
得法寺(遠敷郡熊川)										
越前通過日数									4	
推定越前通過日数	4		4				5	7	5	

顯成寺(加賀国大聖寺)										
専称寺(大聖寺河崎)							○(7/17)			
田光教寺(加賀国山田)				□			□(7/14)	□		
緣生寺(加賀国劔橋)				○		○		□	○(10/28)	
専光寺(山城(代)村)										
興宗寺(加賀国月津)							□			
蓮照寺(加賀国月津)				○(2/8)						
徳性寺(山中菅谷村)										
寿経寺(加賀国山中)									□	
燈明寺(加賀国山中)										
医王寺(加賀国山中)										
恩榮寺(加賀国山中)								○		
法円寺(山中上原村)								□	○(11/1)	
本覚寺(加賀国小松)				○(2/9)		○(6/29)				
西照寺(加賀国小松)							□(7/15)			
長円寺(加賀国小松)			□(5/6)	○		○(6/29)	○(7/16)	○		
勝光寺(小松打越)										
松園寺(小松波佐谷)										
本蓮寺(加賀国小松)		○(3/3)					□			
本光寺(加賀国小松)										
本誓寺(松任)			○(5/6)	○(2/10)			○(7/15)	○(4/2)		
照台寺(野々市)		○(3/6)								
御坊(加賀国)	○(5/29)			○(2/10)		○(6/30)	○(7/14)	○(4/2)		
吉藤御堂専光寺(金沢)								○(4/2)		
光教寺(金沢)				□(2/10)		□(6/30)		○(4/2)		
光専寺(金沢)										
本泉寺(加賀二保)							○(7/12)	○(4/4)	□	
光徳寺(越中法林寺村)							○(7/11)	○(4/4)	○	
瑞泉寺(越中高田井波)	□						□(7/11)	□	□(10/24)	
勝光寺(越中放生津)										
極性寺(越中富山)	□(6/3)	○(3/14)					□	□		
傳正寺(高島郡野口村)										
顯慶寺(江州海津)										
蓮光寺(江州海津)				○(2/2)						
浄立寺(高嶋郡浜分村)										
称福寺(江州月出浦)								○		
長浜御坊(江州長浜)									○(11/6)	
聖蓮寺(美濃国不破郡)	○(5/18)									

池田 越前に於ける二十四輩巡拝について

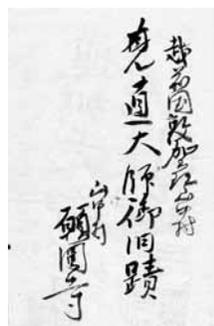
二十四輩巡拝帳集 (1)



33 文化4年 光伝寺



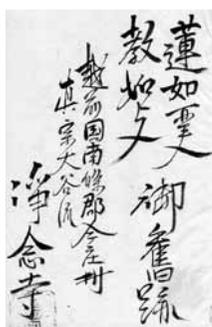
34 嘉永7年 光伝寺



35 明治18年 願円寺



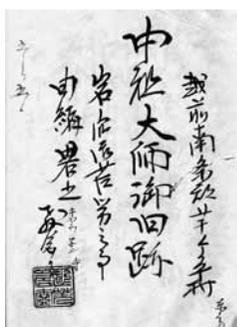
36 文化13年 円教寺



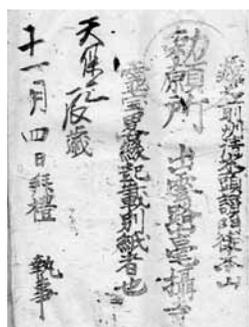
37 明治18年 浄念寺



38 嘉永7年 芋ヶ平



39 明治18年 教念寺



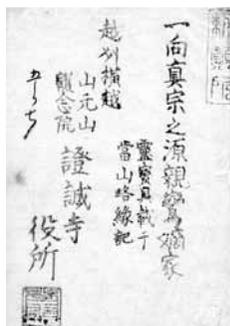
40 天保3年 毫摂寺



41 明治18年 毫摂寺



42 文化4年 証誠寺



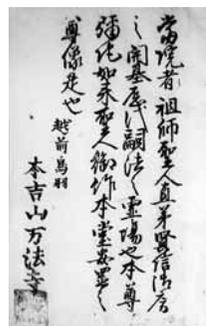
43 明治18年 証誠寺



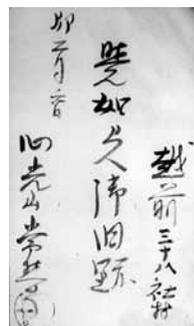
44 文化3年 誠照寺



45 明治18年 誠照寺



46 文化4年 万法寺



47 文化4年 常照寺



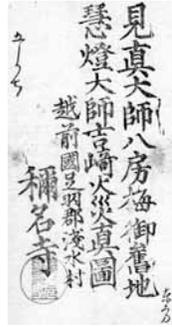
48 嘉永7年 常照寺

二十四輩巡拝帳集 (2)

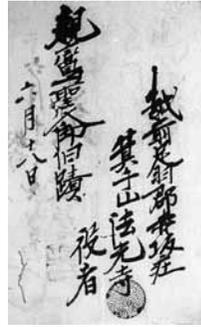
池田 越前に於ける二十四輩巡拝について



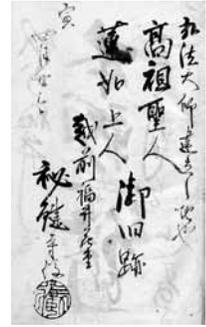
49 天保3年 称名寺



50 明治18年 称名寺



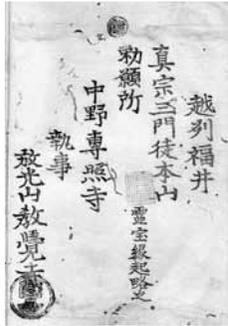
51 安政5年 法光寺



52 嘉永7年 秘鍵寺



53 明治18年 秘鍵寺



54 天明元年 専照寺



55 文化4年 専照寺



56 明治18年 専照寺



57 天保3年 橋宗賢



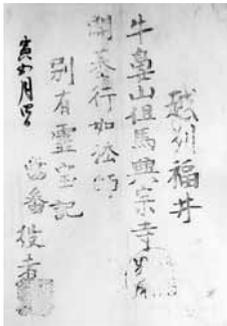
58 天明元年 本覚寺



59 文化3年 本覚寺



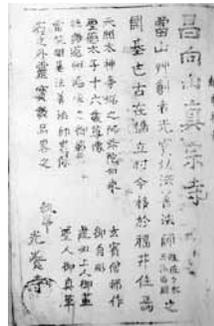
60 明治18年 本覚寺



61 文化3年 興宗寺



62 明治18年 興宗寺



63 文化4年 真宗寺



64 天明元年 福井掛所

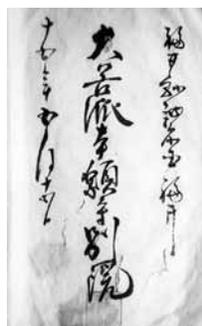
二十四輩巡拝帳集 (3)



65 文化3年 本願寺役所



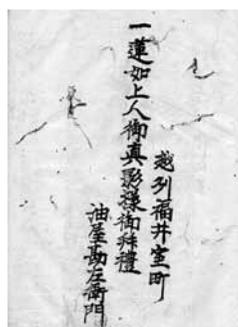
66 明治18年 本願寺別院



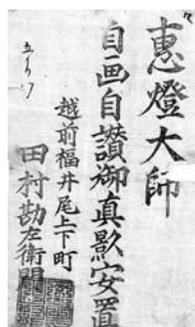
67 明治18年 大谷別院



68 明治18年 願乗寺



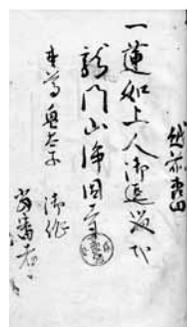
69 天明元年 油屋



70 明治18年 田村



71 明治18年 巖教寺



72 嘉永7年 浄因寺



73 明治18年 常安道場



74 明治18年 妙安寺



75 天保14年 常楽寺



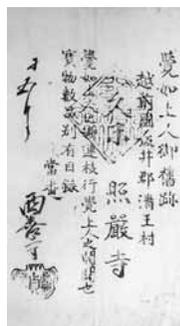
76 嘉永2年 本流院



77 天保14年 智敬寺



78 天保14年 西光寺



79 文化3年 照巖寺



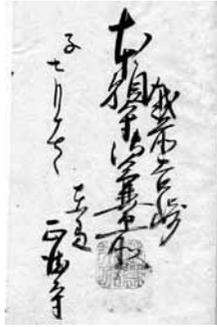
80 文化4年 吉崎西会所

二十四輩巡拝帳 (4)

池田 越前に於ける二十四輩巡拝について



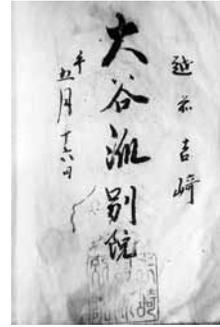
81 文化8年 吉崎御堂



82 文化13年 吉崎兼帯



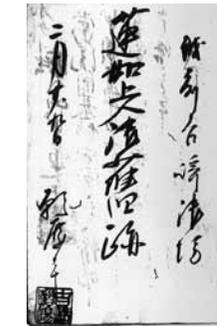
83 明治18年 吉崎西別院



84 明治18年 吉崎東別院



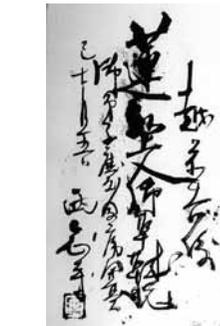
85 天明元年 吉崎掛所



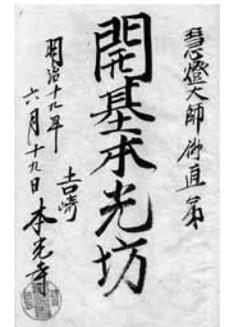
86 寛政2年 吉崎御坊



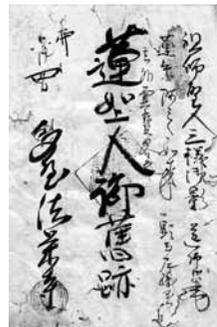
87 明治18年 願慶寺



88 明治2年 西念寺



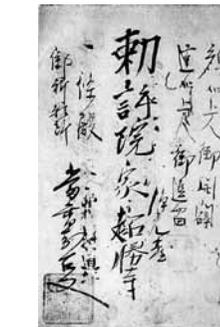
89 明治18年 本光寺



90 天保14年 法栄寺



91 安政5年 大野保田道場



92 安政5年 超勝寺



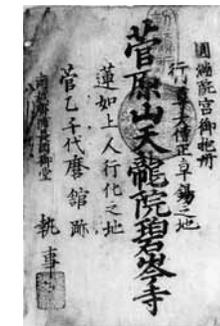
93 安政5年 本光寺



94 安政5年 巖福寺



95 安政5年 勝万寺



96 慶応4年 碧岑寺